



栄光の未来

R6.7.11 発行
第12号

栗山千歳会より
雑巾 100 枚寄贈

地域の応援団に感謝！

昨日、栗山にある老人クラブ「栗山千歳会」の方々から段ボール1箱分の雑巾を寄贈いただきました。千歳会様からは毎年雑巾を寄贈していただいています。訪問くださった4名の皆さんは全員元気はつらつで、校長室でお茶を飲みながら楽しくお話をさせていただきました。



地域の皆様の思いがこもった雑巾です！

東石山中は、三本柱の一つに「掃除」を掲げ、全校生徒で清掃の時間を中心に校舎美化に努めています。今回いただいた約 100 枚の雑巾には、東石山中に対する地域の皆様の気持ちが込められており、東石山中の取組の中核を力強く応援してくれるものとしてありがたく感じています。

「掃除」の充実のために、有効に使わせていただきます。学校を支えてくださる地域の皆様に感謝です。

人が環境をつくり、環境が人をつくる

清掃をはじめとする美化活動や環境整備は、生活環境を整えることだけが目的ではありません。私たちが日々生活する環境は、私たち自身の人間形成にも大きく影響するのです。整った環境の中で生活すると、何かを一生懸命やろうとする主体性や意欲が生まれ、優しさや思いやりといった社会性が育まれます。反対に、乱れた環境に身を置きながら生活すれば、知らず知らずのうちに心がすさんでいきます。



校舎内のあちこちで、きちんと整えられた様子がみられます！

環境にはそれだけ大きな力があり、環境を通して自分たちを高めていくことが、学校における美化活動や環境整備の目的と言えらると思います。

この環境をつくるのは、私たち自身です。毎日の係や当番、委員会の活動、清掃の時間などでの皆さんの取組により、教室や廊下をはじめとする学校の環境がよく整えられています。その上で、さらに環境を整えようとしたときに、皆さんの「主体性」が問われます。決められた係や当番、設定された清掃の時間ではないところで、自分たちの生活環境をよりよく整えるために一肌脱げるかどうか、皆さん一人一人の真価が問われるところですね。

曹洞宗円福寺の藤本幸邦住職の詠んだ詩と、彼の言葉を紹介します。この詩にある「心がそろろう」とは、「心が整う」ということです。詩と言葉が心にしみるのは、自分だけではないと思います。



曹洞宗円福寺
藤本幸邦住職

人間が人間として修行していくには、心から修行する方法と、形から修行する2つの方法があり、自分で心のほうから修行できる人はよほどできた人です。しかし私たちのような凡人は、形のほうから入っていくと、心のほうも整ってくるものなのです。

はきものをそろえる
藤本 幸邦

はきものをそろえると 心もそろう
心がそろうと はきものもそろう
ぬぐどきにそろえておく
はくときに心がみだれない
だれかがみだしていたら
だまってそろえておいてあげよう
そうすれば
世界中の人の心もそろうでしょう